

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

京都医療センター



院長PROFILE

小西 郁生（こにし いくお）

1952年生まれ。76年京都大学医学部卒業。

99年信州大学医学部産科婦人科学教授、2007年京都大学大学院医学研究科婦人科学産科学教授、2008年同医学部附属病院副病院長を経て、2016年京都医療センター病院長に就任。

2016年日本産科婦人科学会第22回中山信明賞受賞。

救命救急病院としての使命と、がん拠点病院としての使命。
この2本柱を中心に、地域医療の発展に貢献していきます。

当院の2本柱の1つは救命救急で、もう1つは地域のがん連携拠点病院としてのがん診療です。患者さんのニーズもそこにあると思います。

救命救急に関しては、救命救急センターを中心に、各診療科が非常に協力的で、常時、高度なレベルの医療がなされています。それを間近に見て、これからの高齢化社会には最前線の救急医療が大切だと感じていますし、また、それが当院の使命です。

もう1つの柱であるがん診療では、各診療科長をはじめ、みなさんのモチベーションが高く、質が維持されているため、地域の方の信頼も厚いものがあります。手術支援ロボットやPET/CTも入っていますし、最先端治療を含めてきちんとしたがん治療ができていると自負しています。

教育に関しては、当院の有利な点として、総合内科があります。平成16年度の新医師臨床研修制度のプライマリケアで注目された小山弘先生がいらっしゃることで、多くの研修医が集まってくれたという歴史があります。今後、新しい専門医制度ができる場合にも、魅了ある指導医の存在が重要になってくるのではないかと感じます。また、国立病院機構全体としても総合力を生かして人を集め、教育していくことが、とても大事だと思います。教育が好き、教えるのが好きという先生方が多数いらっしゃいますし、そこに若い人がやってくるという素地があります。当院としてもその利点を生かしたかたちでやっていきたいと考えます。

国立病院機構は、急性期の総合病院もあり、セーフティネットの病院もあります。いろいろな地域があり、さまざまな規模の施設があります。新しい総合診療専門医の役割は、キーワードとして、地域全体の面倒をみるということが最も大事なテーマになります。そのための素養を研修で学び、地域の中で、一番求められる部分を活かしていく。そのためには、まず、基本の総合診療力を研修する、中核の部分を鍛えることが当院にはできると考えています。

機構全体をみると、全国規模のこれだけの連携があつて、救急もやり、がんを扱うセクションもあれば、地域最前線の部分もあり、セーフティネットも担っている。そういうさまざまな面を利用することが大切です。当院で、総合診療専門医になるための最初のプライマリーな動機付けができ、最も高度な研修を受けることで、どこへ行っても地域に合ったかたちに分化する能力を身につけられるのではないかと思います。

そういった意味で当院を振り返ると、救命救急センターと総合内科がタイアップしているのは大きいでしょう。救急医療の研修もしながら、総合内科の研修もし、最初の部分の教育をしっかりと受け持つことができるのではないかと考えています。

京都医療センター DATA

■ 所在地

京都府京都市伏見区深草向畑町1-1
<http://www.hosp.go.jp/kyotolan/>

■ 病床数

600床

■ 診療科目

総合内科・総合診療科／膠原病／リウマチ内科／神経内科／血液内科／腎臓内科／腫瘍内科／消化器内科／呼吸器科／循環器内科／糖尿病内科／内分泌・代謝内科／小児科／外科／整形外科／形成外科／脳神経外科／血管外科／心臓外科／皮膚科／泌尿器科／産科婦人科／眼科／精神科／耳鼻咽喉科／頭頸部外科／歯科口腔外科／小児歯科／放射線科／麻酔科／リハビリテーション科／臨床検査科／病理診断科／緩和ケア科／救命救急科

■ 研修の特色

全診療科が揃っており、一般的な疾患から稀少な疾患まで、症例が豊富です。各診療科の垣根が低く、気軽にコンサルテーションできます。内科ローテーションでは、総合内科および早期から内科各診療科の専門医の指導が受けられます。救命救急センターでは、ER担当を通じ、1〜3次救急の幅広い経験が可能。また、臨床および研究両面で大学病院との密接な連携が構築されています。



健診センター



集中治療室



緩和ケア病棟



伏見稲荷大社

京都医療センターのある街

名水の湧き出る伏見はかつて酒造りで栄え、運河の拠点でもあった

京都市の南東部に位置する伏見区は11区内で最も人口が多い。商売繁盛・五穀豊穡の神で知られる伏見稲荷大社の門前町でもある。名所・旧跡には、国宝の阿弥陀堂・阿弥陀如来坐像のある法界寺、「古都京都の文化財」の一部として世界遺産に登録された醍醐寺などがある。

伏見区内には桂川や宇治川などの河川があり、古くから水運の拠点として栄えてきた。また、良質な地下水が豊富なことから酒造業が栄え、伝統的な日本酒の産地としても有名だ。

日本酒醸造関連遺産である月桂冠大倉記念館、松本酒造酒蔵は、酒造場とその周辺の菜の

花畑が時代劇の撮影地として知られている。大正11年に建てられた酒蔵と煉瓦建造物の倉庫と煙突は月桂冠大倉記念館や十石舟などとともに「伏見の日本酒醸造関連遺産」として2007年に経済産業省の近代化産業遺産にも認定された。

清酒の仕込み期間にはライトアップもされているそう、この時期に京都を訪れることがあったらぜひ見学へ。そのほかに純京都産の「祝」を製造する齋藤酒造では田植えから稲刈りまでを体験できる酒米オーナー制度もある。他にもさまざまなイベントが開催されているので、日本酒好きならぜひ参加してみるといいだろう。

